



梅島小だより

「ゴミを拾う子は捨てる子にならない」

校長 江原 敦史

これは、前橋育英高校野球部の監督として夏の甲子園初出場優勝という快挙を成し遂げた荒井監督の言葉です。ささいなことにも目を向けることの大切さ、当たり前のことを積み重ねることの大切さを生徒に指導し、野球部を優勝に導きました。

この「ゴミを拾う」というささいな行動について最近印象に残ったことがあります。

現在大リーグで活躍している大谷翔平選手が、4月11日の対レンジャーズ戦でとった行動です。8回表の攻撃でバッターの大谷選手は四球を選んで出塁します。代わった投手がいきなり投げた牽制球であわてて一塁ベースに戻った大谷選手は、さりげない行動をとりました。ベースの側に落ちていた白い小さなゴミを拾ったのです。移籍して間もない大リーグの試合の最中にそのような行動がとれる大谷選手は、やはりすばらしい一流の選手なのだと思います。

実はこれと似たようなことが梅島小でもありました。

現在6年生のみなさんは、毎朝1年生の教室でお世話をしてくれています。

ある朝、玄関のところでお世話を終えて教室に戻ろうとする6年生のみなさんに会いました。

口々に「おはようございます」と気持ちのよいあいさつをしてくれました。

その時ふと靴箱のところを見ると、2人の6年生が黙々と1年生の靴をきれいにそろえてくれていました。

誰かに頼まれたわけでもなく、側で誰かが見ているわけでもない状況の中、2人の行動はとても美しいものに思えました。思わず2人に「校長としてお礼を言いたいと思います。ありがとうございます」と頭を下げました。

2人はニコリとうれしそうに笑って「ありがとうございます」と言い、その作業を続けました。

「ゴミを拾う」とか「靴をそろえる」というさりげない行動の中に、すでにその人の行いの結果が表れているのだと思います。

ゴミを拾ったり靴を揃えたりしたら後で周りの人が喜ぶ…だけではなく、ゴミを拾う人は拾いながらゴミを捨てない人に、靴をそろえる人はそろえながら靴をていねいに扱う人になっているのです。

これからも子どもたちのこのようなすばらしい行いに目を向けつつ、教師自身も同様にそのような行いを重ねながら、ささいなことをていねいにできる子どもを育てていきたいと思います。